

# 第 3 章

## 現状と課題

1	コロナ禍による変化と課題	14
2	市民意識調査等から見る現況	16

## 1 コロナ禍による変化と課題

**新**型コロナウイルス感染症の感染拡大は、公衆衛生上の危機管理という直接的な影響だけでなく、経済面や人々の意識の面など社会全体に大きな影響を与え、変化をもたらしました。急激な変化によって、さまざまな対応が必要な課題が浮き彫りとなっています。

### (1) 新興感染症の脅威

**国**の専門家会議から「新しい生活様式」が提言され、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いが感染防止の三つの基本として示され、感染拡大防止対策として、国民に相当程度定着しました。茅ヶ崎市では、これまで国県の方針等を踏まえ、ウイルスの特性や感染動向に応じて、人員・予算を投じて臨機応変に対応をしてきました。

国もコロナ禍への対応を矢継ぎ早に講じてきましたが、各種給付金の給付やワクチン接種証明の発行などで手続きに時間を要したことから、利用者誰もが利用しやすい行政手続きのデジタル化の必要性が高まっています。

こうした今回のコロナ禍の対応を教訓に、新興感染症に対する危機管理体制を構築するとともに、デジタル化を手段としてこれまでの常識を変革するデジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進していくことが必要となっています。

### (2) 人の交流の抑制

**感**染を抑制する観点から、多くの社会活動や地域経済活動に急ブレーキをかける事態となりました。地域活動や市民活動は、人が集まって行われる行事等の開催に制約が生まれ、地域経済も緊急事態宣言下における営業自粛や感染防止対策に対応を余儀なくされました。

地域活動や市民活動は、まちに必要不可欠なものであり、一度立ち止まった結果を踏まえて、人のつながりや交流など絆の再構築を促進していくことが必要です。

また、地域経済についても、まちの原動力となるものであり、飲食店をはじめとするコロナ禍で影響を受けた業種の再興を促進していくことが必要です。

### (3) 孤独・孤立の深刻化

コロナ禍前から家族や地域など人の関わり合いの希薄化により孤独・孤立を感じる状況が進行していましたが、そうした状況への対応が急務となっている中、コロナ禍によって、感染防止のため対面での対応が抑制され、困りごとを抱えている方の交流や見守り、相談などきめ細かい対応が困難になりました。

こうした状況を踏まえ、子育て世帯、高齢者、障がい者などで困りごとを抱えている方の状況を把握し、孤独化・孤立化しない体制を整備していくことが必要となっています。

### (4) 転入先として茅ヶ崎が選ばれる傾向

総務省公表の「令和3(2021)年住民基本台帳人口移動報告」において、東京都特別区部が平成8(1996)年以来 25年ぶりに転出超過(日本人のみ)となりました。コロナ禍によってその転出先の傾向に変化が見られ、コロナ禍前と比べた増加率では、茅ヶ崎市が全国1位の増加率となりました。また、茅ヶ崎市は転入者が転出者を上回る転入超過数が多い自治体とされ、特に子育て世代層の転入の割合が高い傾向にあります。

世代間バランスがとれたまちの実現に向け、この社会潮流の変化が一過性のものとならないよう、子育て世代の転入を促進する取り組みが求められています。

### (5) テレワークやサテライトオフィスなどの働き方の多様化

ソーシャルディスタンスを確保する観点からテレワークによる在宅勤務やサテライトオフィスの新設による分散勤務が、新たな働き方として浸透してきています。茅ヶ崎市内にもサテライトオフィスやコワーキングスペースを新設する動きが現れています。

また、こうした新たな働き方の浸透に伴って、押印の廃止など非対面・非接触型の手続きの構築に向けてデジタル化の必要性が顕在化しています。

この社会潮流の変化を踏まえ、東京までほどよい距離にあることを生かし、茅ヶ崎における柔軟な働き方を形成・促進し、まちの魅力にしていけることが求められています。

## 2 市民意識調査等から見る現況

市民の市政に対する満足度や重点を置くべき政策分野、市政やまちづくりに対する意見などを把握し、総合計画の進行管理のための基礎資料とするため定期的に市民意識調査を実施しています。

### 令和3(2021)年度調査の実施概要

#### ① 調査設計

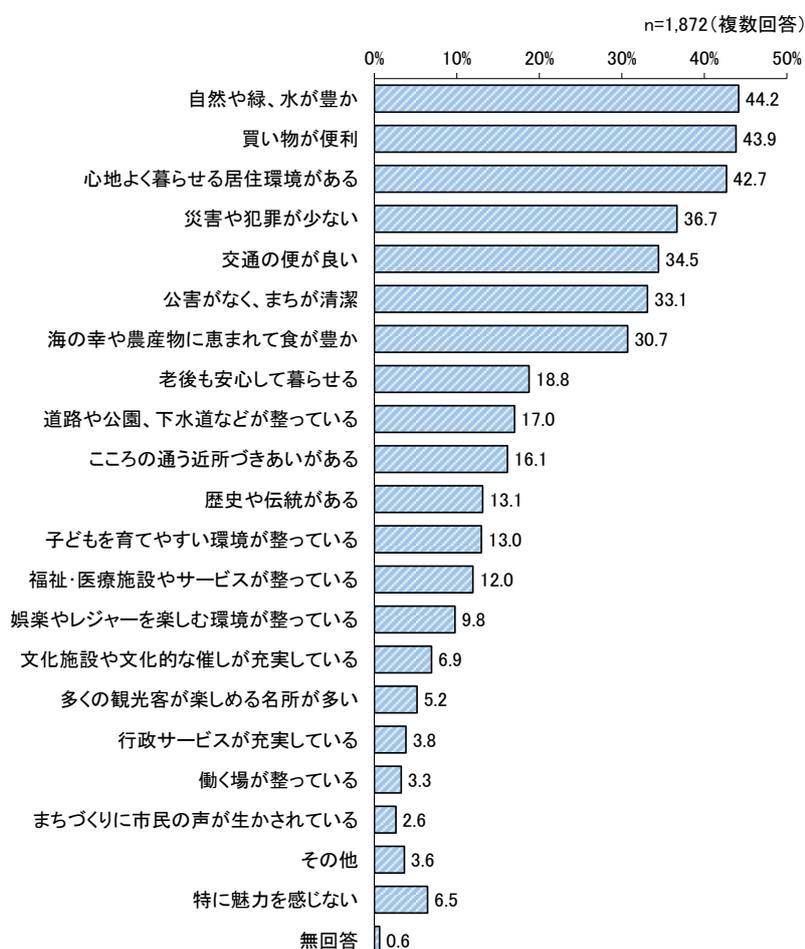
- ・ 調査対象：茅ヶ崎市内に居住する満16歳以上の市民
- ・ 対象者数：3,000人（住民基本台帳による無作為抽出）
- ・ 調査方法：郵送配布・郵送回収及びインターネット回答
- ・ 調査期間：令和4(2022)年2月22日から4(2022)年3月15日まで

#### ② 回収結果

有効回収数 1,872票（有効回収率 62.4%）

### (1) 市の魅力

問 どんなどころに茅ヶ崎市の魅力を感じていますか。（複数回答）



○ 自然が豊かで利便もあるといった住宅都市としての快適性や安全な暮らしに関わる項目が上位となっています。

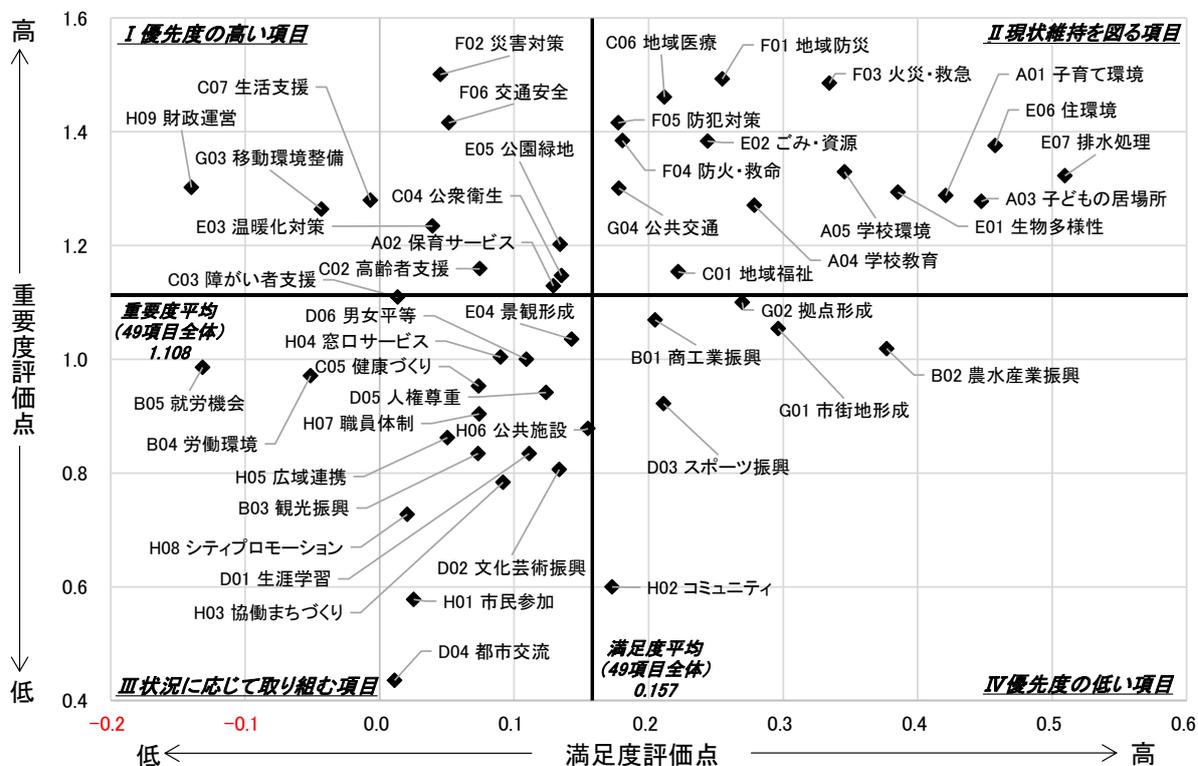
○ 前回調査(令和元(2019)年度)と大きな差は生じていません。

○ 年齢別に分析すると、「公害がなく、まちが清潔」「災害や犯罪が少ない」の項目について、高齢者ほど数値が高い傾向にあります。

## (2) 満足度・重要度の散布図

市民意識調査で調査した各政策分野への満足度・重要度について、散布図による分析を行いました。

【満足度・重要度の散布図】



※項目名は略称

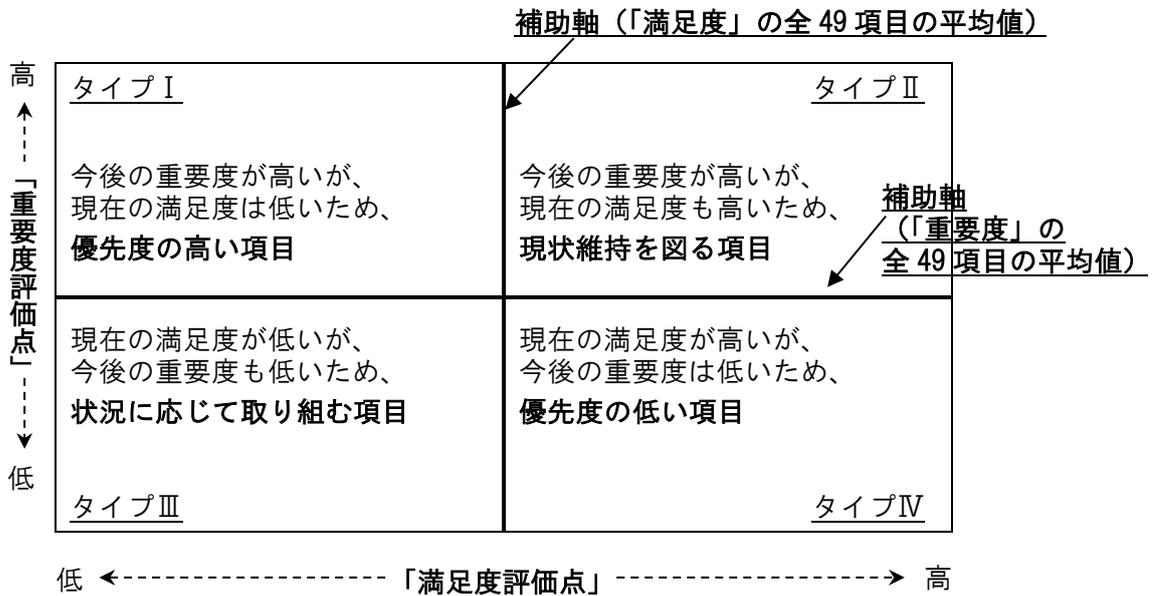
- 重要度が高く、満足度が低い項目（左上）の領域は、災害対策や安定的な市政運営、道路などのインフラ、高齢者・障がい者支援、温暖化対策などがあります。
- 重要度・満足度が高い項目（右上）の領域は、現状を維持・充実させていく必要がある項目で、地域医療や子育て、教育などがあります。

### ■散布図の見方

散布図は、縦軸は「重要度」、横軸は「満足度」を表しており、2本の補助軸は、それぞれ「重要度」と「満足度」の全49項目の平均値の位置を示す。

なお、4つの区切りのタイプは、以下の通り。

- タイプⅠ・・・「重要度」が平均値以上で、「満足度」は平均値以下のもの
- タイプⅡ・・・「重要度」が平均値以上で、「満足度」も平均値以上のもの
- タイプⅢ・・・「重要度」が平均値以下で、「満足度」も平均値以下のもの
- タイプⅣ・・・「重要度」が平均値以下で、「満足度」は平均値以上のもの



### ■点数（加重平均値）の算出方法

満足度・重要度は、以下の通り、加重平均により点数化を行うことで、分析を行う。

$$\text{点数 (加重平均値)} = \frac{A \times 2 + B \times 1 + C \times 0 + D \times (-1) + E \times (-2)}{\text{(無回答を除く回答総数)}}$$

- A：「満足」「重要である」 ..... 2ポイント
- B：「まあ満足」「ある程度重要」 ..... 1ポイント
- C：「どちらともいえない」 ..... 0ポイント
- D：「やや不満」「あまり重要でない」 ..... -1ポイント
- E：「不満」「重要でない」 ..... -2ポイント

### (3) 前回調査との比較

令和(2019)年12月に同一の調査内容で調査を行っています。前回調査との満足度・重要度の変化を分析しました。

#### 【満足度／前回調査との比較（点数）】

項目名	令和3年度	令和元年度	比較の差
A01 安心して子どもを産み育てることができる環境	0.421	0.335	0.086
A02 多様なニーズに応じた保育サービス	0.129	0.020	0.109
A03 子ども・若者が、地域のなかで安心して過ごすことができる環境	0.447	0.343	0.104
A04 児童・生徒の学力や人間性、健やかな体をはぐむ学校教育	0.278	0.184	0.094
A05 児童・生徒が安心して過ごすことができる学校の環境	0.346	0.270	0.076
B01 市内の店舗や企業の活発な事業活動	0.205	0.094	0.111
B02 地域の魅力的な農水産物	0.377	0.293	0.084
B03 地域資源を生かした観光振興	0.073	0.042	0.031
B04 ライフスタイルに応じた働き方ができる市内の労働環境	-0.051	-0.154	0.103
B05 希望にあった就労機会の提供	-0.132	-0.226	0.094
C01 ともに見守り支え合う地域の体制	0.222	0.198	0.024
C02 高齢者の生活支援、活躍の場	0.074	0.007	0.067
C03 障がい者の生活支援、活躍の場	0.013	-0.012	0.025
C04 食中毒や感染症などへの対策	0.135	0.119	0.016
C05 ライフステージに応じた健康づくりへの支援	0.074	0.090	-0.016
C06 地域の医療体制	0.212	0.106	0.106
C07 生活困窮や病気、介護などに対する支援	-0.007	-0.049	0.042
D01 生涯を通じて学ぶことができる環境	0.111	0.086	0.025
D02 文化・芸術に触れることができる環境	0.134	0.133	0.001
D03 スポーツを気軽に楽しむことができる環境	0.211	0.179	0.032
D04 国内外の都市や市民との交流の機会	0.011	0.004	0.007
D05 互いを尊重し、多様性を認め合う社会	0.124	0.067	0.057
D06 男女が対等な立場で協力し合う社会	0.109	0.079	0.030
E01 海岸や河川、里山のみどりや身近な生きものの保全	0.385	0.353	0.032
E02 ごみの適正処理や減量化、資源化の取り組み	0.244	0.387	-0.143
E03 地球温暖化・気候変動への対策	0.039	-0.053	0.092
E04 魅力的な景観の形成	0.143	0.096	0.047
E05 身近な公園・緑地	0.134	0.073	0.061
E06 心地よい住環境	0.458	0.373	0.085
E07 生活排水の適正処理	0.509	0.443	0.066
F01 地域における防災への備え	0.255	0.141	0.114
F02 災害に強いまちの形成	0.045	-0.035	0.080
F03 火災・救急への対応	0.334	0.252	0.082
F04 市民における防火・救命への備え	0.181	0.103	0.078
F05 防犯対策	0.178	0.098	0.080
F06 交通安全対策	0.051	-0.007	0.058
G01 里山などの自然と住宅、商業、工業などの市街地がバランスよく配置されたまちの形成	0.296	0.215	0.081
G02 便利で居心地のよい都市拠点の形成	0.270	0.198	0.072
G03 道路などの整備による快適な移動環境の形成	-0.043	-0.070	0.027
G04 公共交通(鉄道・バス等)	0.178	0.094	0.084
H01 まちづくりへ参加する機会	0.025	0.059	-0.034
H02 自治会などの地域コミュニティの主体的な活動	0.173	0.242	-0.069
H03 市民・事業者・行政が連携・協力したまちづくり	0.092	0.081	0.011
H04 申請のデジタル化などによる多様なニーズに対応した窓口サービス	0.090	0.098	-0.008
H05 県や近隣市町と連携した行政サービスの利便性	0.050	0.024	0.026
H06 公共施設の適正な管理運営	0.155	0.105	0.050
H07 市民ニーズに対応する職員体制	0.074	0.029	0.045
H08 まちの魅力の発信力(シティプロモーション)	0.021	0.007	0.014
H09 将来にわたって安心できる透明性の高い財政運営	-0.140	-0.161	0.021
満足度平均	0.157	0.109	0.048

前回調査と比較すると、「多様なニーズに応じた保育サービス」、「子ども・若者が、地域のなかで安心して過ごすことができる環境」、「市内の店舗や企業の活発な事業活動」、「ライフスタイルに応じた働き方ができる市内の労働環境」、「地域の医療体制」、「地域における防災への備え」のスコアが0.1ポイント以上の増となっている一方で、「ごみの適正処理や減量化、資源化の取り組み」のスコアが0.1ポイント以上の減となっています。

【重要度／前回調査との比較（点数）】

項目名	令和3年度	令和元年度	比較の差
A01 安心して子どもを産み育てることができる環境	1.288	1.336	-0.048
A02 多様なニーズに応じた保育サービス	1.129	1.161	-0.032
A03 子ども・若者が、地域のなかで安心して過ごすことができる環境	1.278	1.309	-0.031
A04 児童・生徒の学力や人間性、健やかな体をはぐくむ学校教育	1.271	1.317	-0.046
A05 児童・生徒が安心して過ごすことができる学校の環境	1.329	1.359	-0.030
B01 市内の店舗や企業の活発な事業活動	1.069	1.074	-0.005
B02 地域の魅力的な農水産物	1.019	1.009	0.010
B03 地域資源を生かした観光振興	0.834	0.814	0.020
B04 ライフスタイルに応じた働き方ができる市内の労働環境	0.971	0.991	-0.020
B05 希望にあった就労機会の提供	0.986	1.007	-0.021
C01 ともに見守り支え合う地域の体制	1.154	1.160	-0.006
C02 高齢者の生活支援、活躍の場	1.159	1.179	-0.020
C03 障がい者の生活支援、活躍の場	1.109	1.108	0.001
C04 食中毒や感染症などへの対策	1.147	1.049	0.098
C05 ライフステージに応じた健康づくりへの支援	0.953	0.966	-0.013
C06 地域の医療体制	1.461	1.463	-0.002
C07 生活困窮や病気、介護などに対する支援	1.280	1.293	-0.013
D01 生涯を通じて学ぶことができる環境	0.834	0.841	-0.007
D02 文化・芸術に触れることができる環境	0.806	0.816	-0.010
D03 スポーツを気軽に楽しむことができる環境	0.922	0.879	0.043
D04 国内外の都市や市民との交流の機会	0.436	0.467	-0.031
D05 互いを尊重し、多様性を認め合う社会	0.942	0.923	0.019
D06 男女が対等な立場で協力し合う社会	1.000	0.943	0.057
E01 海岸や河川、里山のみどりと身近な生きものの保全	1.294	1.215	0.079
E02 ごみの適正処理や減量化、資源化の取り組み	1.384	1.385	-0.001
E03 地球温暖化・気候変動への対策	1.235	1.253	-0.018
E04 魅力的な景観の形成	1.035	0.985	0.050
E05 身近な公園・緑地	1.202	1.166	0.036
E06 心地よい住環境	1.376	1.335	0.041
E07 生活排水の適正処理	1.323	1.329	-0.006
F01 地域における防災への備え	1.493	1.487	0.006
F02 災害に強いまちの形成	1.501	1.544	-0.043
F03 火災・救急への対応	1.486	1.470	0.016
F04 市民における防火・救命への備え	1.385	1.385	0.000
F05 防犯対策	1.416	1.433	-0.017
F06 交通安全対策	1.416	1.418	-0.002
G01 里山などの自然と住宅、商業、工業などの市街地がバランスよく配置されたまちの形成	1.054	1.034	0.020
G02 便利で居心地のよい都市拠点の形成	1.100	1.066	0.034
G03 道路などの整備による快適な移動環境の形成	1.264	1.260	0.004
G04 公共交通（鉄道・バス等）	1.301	1.333	-0.032
H01 まちづくりへ参加する機会	0.578	0.578	0.000
H02 自治会などの地域コミュニティの主体的な活動	0.600	0.630	-0.030
H03 市民・事業者・行政が連携・協力したまちづくり	0.784	0.838	-0.054
H04 申請のデジタル化などによる多様なニーズに対応した窓口サービス	1.004	0.876	0.128
H05 県や近隣市町と連携した行政サービスの利便性	0.862	0.803	0.059
H06 公共施設の適正な管理運営	0.878	0.892	-0.014
H07 市民ニーズに対応する職員体制	0.904	0.897	0.007
H08 まちの魅力の発信力（シティプロモーション）	0.727	0.688	0.039
H09 将来にわたって安心できる透明性の高い財政運営	1.302	1.292	0.010
重要度平均	1.108	1.103	0.005

前回調査と比較すると、「申請のデジタル化などによる多様なニーズに対応した窓口サービス」のスコアが0.1ポイント以上の増となっています。